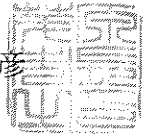


茂 都 建 第 5 5 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

茂原市長 田 中 豊 彦



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号により依頼のありましたこのことについて、
別紙のとおり提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

茂原市長 田中 豊彦

意見・提案について

(1) 道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案

一点目、交通安全の向上を図るべく渋滞対策、通学路の歩道整備を推し進めると共に、急激に高齢化を迎える橋梁等、既存ストックの修繕・保全などを計画的に進められるよう新たな国の支援が必要である。

二点目、道路特定財源が平成 21 年度より一般財源化されるが、道路特定財源諸税の納税者の理解を得た上で実施すべき。また、真に必要な道路は整備を行ない、無駄な支出は排除し、社会生活の基盤施設である道路整備に優先的に充当するよう要望する。特に、圏央道などの 3 環状道路を早急に整備し、道路ネットワークを完成させる必要がある。

三点目、地球温暖化対策等 CO2 の削減が叫ばれているが、新エネルギーや省エネルギーの開発への積極的な国費導入と燃料電池車等エコカーの導入に対する助成など、国策としてしっかり取り組んで欲しい。

(2) 地域の現状や課題及び目指すべき将来像

市民生活に密接な関係のある生活道路は、地域経済を支える根幹施設として重要な役割を果たしており、交通の利便性と安全性を確保した道づくりを実施していく必要がある。私共の市においても道路予算の大変厳しい中、多様化する住民ニーズの対応に苦慮しているのが実情である。

近年の交通量の増加による既存ストック、特に橋梁の老朽化により、交通渋滞や道路破損が生じており、早急な修繕・延命化が急務なことから、維持補修のための補助制度の拡大並びに新たな助成制度の創設が望まれる。

また、高齢化が進展する中、車椅子使用の高齢者も増えていることから、安全な歩道の整備、子供たちの通学路の安全の確保、生活道路の完全舗装化、並びに緊急車両通行不可能箇所の改善など、道路に関する課題が山積しており、大幅な予算の確保が急務となっている。

一方、圏央道が平成 22 年度開通が予定されており、圏央道を核とした企業誘致の促進や、産業等の振興が図られるものと期待するとともに、これに連結する地域高規格道路の整備による、外房地域への観光産業等の誘導を図ってまいります。特に圏央道と主要地方道千葉茂原線の交差部周辺には、脳

外科医として世界的に有名な福島孝徳記念クリニックがあり、多くの患者並びに研修生が訪れる中、将来的には病院化の方向で準備を進めているとのことで、圏央道との交差部にスマートインターチェンジを設置することにより、救命救急への対応等圏央道の整備効果を最大限に生かした医療の充実が図れるものと期待しております。

(3) 道路施策の重点事項

- ・ 高齢化した道路橋梁の改築及び延命化への助成

高齢化した既存ストックの維持補修が急務である。

- ・ 高齢者や子供達の安全に配慮した歩道の整備

子供たちの通学路の安全の確保、並びに車いす使用高齢者に対応した歩道の整備を実施することにより、市民生活の安全を図る。

- ・ 消防車、救急車の大型化に対する生活道路整備への支援

緊急車両の大型化に対応するため、早急な生活道路が急務である。

- ・ 圏央道東金・茂原・木更津間の平成 22 年度開通目標の実現

長生山武地方拠点都市構想を推進するための核となる道路であり、物流時間の短縮、観光客の誘導、医療圏の拡大等、地域の発展に大いに寄与することから、一日も早い完成を望む。

- ・ 圏央道アクセス道路の整備

道路交通の安全性や、利便性の向上並びに圏央道の利用増進が図られる。

- ・ 主要地方道千葉茂原線交差部スマートインターチェンジの設置

高速自動車国道のみ設置が認められているスマートインターチェンジを、一般有料道路へも設置が認められるよう、早急の制度改正を望む。

- ・ 高速道路利用料金の値下げ

圏央道や東京湾アクアライン、及び高速道路の一体的な料金体系の確立による料金引き下げと、国策による高速道路料金の無料化の実現。